

【口頭発表】

高齡者における孤独死対策の早期発見への分析

—新聞記事データからの検証—

○ 淑徳大学大学院博士前期課程2年生 梁 照艶 (010143)

〔キーワード〕 孤独死、社会問題、早期発見

1. 研究目的

孤独死とは、根本（2009）によれば「死亡場所が居宅であり、誰にも看取られずに死後数日を経て発見されること」という。また、田中・高橋・上野（2009）は仮設住宅における分析を通じて、発見までの経過時間（日数）の長さにおいて着目し、被災者の社会的接点の程度を示す指標となるとしている。そして、通常、発見時間が遅いほど、被災者は社会的に孤立しており、近隣関係などから排除される傾向があると述べている。

高齡者の孤独死による課題は、①日常的に安否確認ができず高齡者が亡くなってしまう。②遺体腐敗による臭気等の公衆衛生上の問題。③生前の社会的結びつきが希薄の3点があげられる。

そこで、本研究では孤独死対策を「予防」という視点ではなく、できるだけ早く遺体を発見するという事後的視点に着目し、孤独死対策の糸口を見出していきたい。なお、既述の根本の定義に併せて、本研究では「自殺」を除く孤独死事案とする。

2. 研究の視点および方法

公表されている新聞記事データ（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞データベース）から孤独死案件において、①集合住宅（アパート、マンション、団地）、②仮設住宅（被災者のための）、③一軒家といった、3つのカテゴリーに分類した。また、これら孤独死事案において発見されるまでの、経過日数、発見者、死因などを分析した。なお、研究データとしては1995年から2022年までの新聞記事とした。

3. 倫理的配慮

本研究においては「日本社会福祉学会研究倫理規程」及び「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を熟読し作業にあたった。なお、使用データは新聞記事データベースによって広く社会に公開されているものであり、個人情報について連結不可能匿名化データを用いた研究であることから、所属する研究機関の倫理審査は不要と判断した。そして、本研究においては利益相反（COI）の団体等はない。

4. 研究結果

本研究で集積した孤独死記事データ数は、以下の通りで重複事例は省いてある。

（1）場所

- 一軒家での高齡者孤独死記事は総計 27 件、そのうち女性 12 件、男性 15 件。
- 集合住宅での高齡者孤独死記事は総計 21 件、そのうち女性 12 件、男性 9 件。

- 仮設住宅での高齢者孤独死記事は総計 57 件、そのうち女性 18 件、男性 39 件

(2) 経過日数

遺体の発見までの経過日数は、1 日以内は仮設住宅のみで 16 件。1 日～3 日以内 18 件（仮設住宅 16 件、集合住宅 2 件、一軒家 0 件）。4 日～7 日以内 19 件（仮設住宅 10 件、集合住宅 4 軒、一軒家 5 件）。8 日から 14 日以内 11 件（一軒家 5 件、集合住宅 3 件、仮設住宅 3 件）。15 日以後 20 件（一軒家 11 件、集合住宅 6 件、仮設住宅 3 件）。不明 21 件。

(3) 発見者

発見者については、一軒家で親類 1 件、専門職 4 件、地域の人 13 件。集合住宅で親類 3 件、専門職 4 件、地域の人 10 件。仮設住宅で親類 6 件、専門職 24 件、地域の人 24 件。不明は 16 件。

(4) 死因

仮設住宅での孤独死では「病死」が最も多く、心不全、急性心筋梗塞、脳溢血、肝硬変、急性アルコール中毒である。一方、集合住宅や一軒家での孤独死は「病死」に加え、餓死（認知症や生活保護の不全、近隣との交流不足）、水死（浴室事故）などであった。

5. 考察

仮設住宅では生活支援員などの専門職による発見事例が散見される。ただし、毎日新聞（1998）「昼食を差し入れに来た、同じ仮設の主婦が見つけた」とのように地域住民による発見経緯も見受けられた。いっぽう、集合住宅や一軒家においては近隣住民による発見事例があるものの、朝日新聞（2000）「牛乳を配達した人が、しばらく姿が見えないので、管理人に連絡して発見された」とあるように数日の時間を要する傾向にある。

このように仮設住宅では構造上の要因もあって親密な人間関係でなくとも、何らかの行き来がしやすいと考える。いっぽう集合住宅や一軒家では、住民同士の親密な関係がないと早期発見にいたる事案とはならない。また、配達人など不安を感じても様子を見るなど、数日の時間が経過し安否確認への行動となる可能性が高くなると考える。

本研究において集積した新聞記事データの分析を試みることで、仮設住宅の孤独死事案における遺体発見日数は、集合住宅や一軒家と比べて早期であることが分かった。しかし、その要因を十分に検証するにはいたっていない。そのため課題としては、さらに記事内容を詳細に分析し、早期発見につながるポイントを探求していかなければならないと考える。

引用文献・参考文献

- 朝日新聞秋田朝刊「独り暮らし女性が孤独死 大曲市営住宅高齢者棟で／秋田」2000年3月7日。
- 毎日新聞大阪夕刊「西宮の仮設住宅で66歳男性が病死」1998年4月13日。
- 根本治子(2009)「孤立した高齢者の死に関する一考察」『花園大学社会福祉学部研究紀要』17, 75-92。
- 田中正人・高橋知香子・上野易弘(2009)「災害復興公営住宅における「孤独死」の発生実態と居住環境の関係 阪神・淡路大震災の事例を通して」『日本建築学会計画系論文集』74(642), 1813-1820頁。
- 読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、データベース。